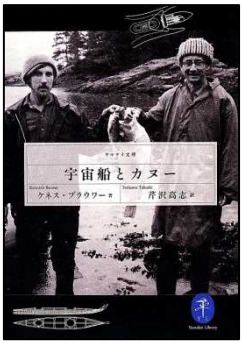
NO. 13
Jan 2016

図書たより

明治大学中野図書館

図書館員オススメの本

【ケネス・ブラウアー著『宇宙船とカヌー』山と渓谷社，2014（ヤマケイ文庫）】



この本は、フリーマン・ダイソンとその息子、ジョージの二重の伝記である（時代は 1960～1970 年代が中心）。父、フリーマンは天才物理学者であり、若くして量子電磁力学という新しい物理学を発見・確立したという。さらに、人類は宇宙を開拓すべきだとして、原子力を使った巨大な宇宙船の製作に取り組む「オリオン計画」を遂行した。一方、ジョージは地上 30 メートルの樹上に家を作り住み、カヌー作りに情熱を傾け、カヌーでのカナダ西海岸からアラスカ南部沿岸の旅と暮らしをしていく。オリオン計画は、アメリカの宇宙計画で原子力が採用されず、終結をむかえるが、フリーマンの宇宙開拓の夢は続いた。この親子は不和になりそうにみえるが、父も次第に息子を理解しようと変化していく。

当時から半世紀程たった今、科学技術と人類というテーマを考えるのに、また冒険や大自然の中の暮らしに興味がある方におすすめの一冊である。

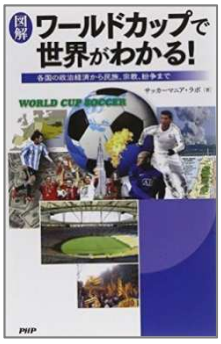
最初の翻訳書は 1984 年、1988 年にちくま文庫刊行、このヤマケイ文庫版で、翻訳に手が入れられ、貴重な写真も収録された。

【酒井順子著『裏が、幸せ。』小学館，2015】

著書「負け犬の遠吠え」が社会現象になった作家・酒井順子さんのエッセイである。仕事柄、日本中を旅してきた著者は、ユーモア溢れる暖かいまなざしで日本海側を「裏」とよぶ。太平洋側を「表＝光」とすると「裏＝陰」としてひっそりと地味な印象の日本海側だが、自然豊かで開発の手を逃れてひっそりとマイペースに生きていた「裏」だからこそ、大切なものが隠されていて、たくさんの魅力を持っているという。闇に浮かぶ金澤の金箔、能登の漆、演歌、民藝、田中角栄、川端康成の雪国、原発などに触れ、その魅力を紹介している。言われてみれば、なるほどとうなづける事ばかりで大変興味深い。陰があるから光があると表現される通り「裏」の魅力満載の現代版『陰翳礼讃』。

東日本大震災以降、地域開発・経済発展ばかりが幸せではなく、開発・発展の代償として大切なものを失ってきたことに私たちは気付き始めている。これからはどういう旅がしたいのか？これからの日本はどうなって欲しいのか？考えるきっかけになる本だと思う。

【サッカーマニア・ラボ著『［図解］ワールドカップで世界がわかる！』PHP 研究所，2014】



サッカーの国際試合をテレビで観ていると、いろいろと不思議な光景に出会う。イランで行われた日本対イラン戦では、観客のなかに女性は一人もいなかった。これはイランが女性のスタジアム観戦を禁じているためである。また、フランス代表の顔触れを見ると移民の選手が多く占めていることがわかる。あのジダンも北アフリカからの移民である。

本書はサッカーの裏事情を知ることができるだけでなく、合わせてオイルマネー、新興国経済、移民、ユダヤ問題、代理戦争など世界情勢も一緒に学ぶことこができるお得な一冊である。読み終わったあとでＥＵ各国のサッカーリーグや国際試合を観ると、きっと新たな視点でサッカーを観ることができるようになっているだろう。

【片田直久著『タモリ伝 ： 森田一義も知らない「何者にもなりたくなかった男」タモリの実像』コアマガジン，2014】

国民的テレビ番組『笑っていいとも！』が32年の歴史に幕を閉じてから2年が経とうとしている。皆さんはタモリという男についてどのようなイメージを持っているだろうか。お昼の顔、音楽番組の司会者、物知りのマニアックなおじさん･･･。
本書はタモリの生い立ちから現在に至るまでを多数の取材をもとに精緻に描き出している。『タモリ伝』という名にふさわしい、まさにタモリの伝記と言えるであろう。
おそらく20代前後の学生の方々からすれば、生まれた頃から当然のようにお茶の間の人気者であったであろう森田一義。一体彼は何者なのか。なぜ日本国民をここまで惹きつけてきたのか。ちょうど終戦の年に生まれたタモリは、戦後の日本と共に時代を歩んできた。彼の歴史を見れば、同時に戦後日本のリアルな有り様も見て取れるかもしれない。タモリファンはもちろん、あまりタモリに興味がなかった人にも是非読んでほしい一冊である。

【穂村弘著『短歌ください』KADOKAWA，2014】

本の情報誌『ダ・ヴィンチ』には、「短歌ください」という短歌の読者投稿ページがある。この本は「短歌ください」に寄せられた短歌の中から、人気歌人の穂村弘が傑作を選出し、まとめたものである。
「恋愛」「眠り」「時間」「癖」「宝物」様々なテーマに寄せられた短歌の、なんと魅力的なことだろう。”少しだけネイルが剥げる原因はいつもシャワーだよシャワー土下座しろ！”のような楽しい歌もあるし、”「日本野鳥の会」にいたという人よ　わたしをかぞえたことがありますか””最後だし「う」まできちんと発音するね　ありがとう　さようなら”など胸をつかれる歌もある。また、一首一首に付けられた穂村のコメント（つっこみ？）がおもしろい。歌人である穂村の的確な講評や推察から、より深く、鮮やかに短歌を味わうことができる。ぜひ、お気に入りの一首を見つけてほしい。そして「自分にも作れそうかも・・・」という方は、実作に挑戦してみてはいかがだろうか。

図書館からのお知らせ

★ 図書館は日曜日も開館しています！

日曜日の開館時間

10：00　～　17：00